

地質工学を駆使して社会的価値を創造する株式会社日さく

株式会社日さくは、井戸建設や地質調査、防災向けの高度な土木技術を通じて、アフリカやアジア地域で誰もがきれいな水にアクセスできるようにするための道を切り開いている。



UAVを使ったSfMとLIDARによる3次元地形解析

100年以上にわたって繁栄してきた企業には、どんなビジネス環境でも繁栄できる原動力として機能する絶対的な哲学が共通していることが多い。日本の水・地質エンジニアリング会社である日さくには、「人材第一主義」「新技術による社会の向上」を掲げ、110年以上にわたって業界を牽引してきた歴史があるのだ。

同社の部門は、井戸建設、地質調査、防災関連の高度な土木工事の3つに分かれてい

る。360度水中カメラ「MVP」や特許取得の「リニューウェル工法」、最新のAI・IoT関連ソリューションなど、さまざまなバックグラウンドを持つ人材を採用し、独自かつ斬新なソリューションを提供しているのだ。



新しい給水施設に集まる村人（ザンビア）

このようなイノベーションの背景には、日本の政府開発援助プログラムを通じてアフリカ、南米、中東で実施したプロ

ジェクトが示すように、日さくの生活向上へのコミットメントが挙げられる。社長の若林氏は、「きれいな水を提供することで、現地の生活の質の向上に貢献することを目指しています」と強調する。

同社は、ネパールで成功したようにベトナムでの事業拡大を目指しており、現地に精通したパートナーを常に見つけ、意欲的なプロジェクトの遂行を支援している。この事業拡大は利益ではなく、人を重視したものであり、若林社長は「利益が一番大事なのではない」と言い切る。「事業を維持することは中間にあり、頂点にあるのは社会資本と人的資本、どの企業にとっても最も価値のある資産なのです」



「日本の伝統技術と最先端技術の融合で社会に貢献することが、私たちの企業理念です。弊社の技術で、水へのアクセスが困難な地域を救っていきたく考えています」

株式会社日さく
代表取締役社長、若林直樹